

## 災害・防災ボランティアへの意識について ～授業「災害を知る」を通して～

山本 真由美<sup>1)</sup>・石本 麻奈<sup>2)</sup>・出口 桜子<sup>2)</sup>・村田 明広<sup>1)</sup>・西山 賢一<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

<sup>2)</sup> 徳島大学大学院総合科学教育部

### 1. 問題と目的

2012年8月末に、東海地方以西を中心に甚大な被害をもたらすとされている「南海トラフ巨大地震」の被害想定が内閣府から出された。この巨大地震・津波の発生は「いつ起きるかわからない」状況にある。地震や津波によって、徳島県にどの程度の被害があるのか、その時にどこにどのように避難すればよいのか、また、日頃からどのように準備をすればよいのかを予め、知っておくことは防災という観点から必要である。

本学では、全学共通教育で「災害を知る」（前期）と「災害に備える」（後期）という授業を開講している。そこでは、地震災害、風水害、火災、自然災害、自主防災、避難所、災害情報、減災などをキーワードに災害への理解を深め、災害へ備えるためのさまざまな知識が教授される。そして、前期と後期を共に受講した者には徳島大学防災リーダーの資格が与えられ、日本防災士機構の防災士認定試験を受験できる。また、この授業は、大学生だけではなく、県下の社会人も受講することが可能である。

そこで、前期開講の「災害を知る」授業を受講している人達を対象に、災害・防災ボランティアに対する意識調査を実施し、大学生と社会人の意識の違いを比較し、大学生の災害・防災ボランティアに対する意識を明らかにしたので、報告する。

### 2. 方法

#### (1) 調査協力者

前期開講の「災害を知る」を受講している学生155人、社会人35人、合計190人に協力を依頼した。

#### (2) 調査実施時期

講義第1回目(4月12日)と講義第15回目(7月26日)に実施した。

### (3) 調査方法

報告者のうち、大学院生2名が当該授業終了時に調査の目的を説明後、質問紙調査用紙を配付し、調査に協力の得られた受講生に対して、その場で記入を求めた。その場での記入が不可能な受講生には、次回の授業時に提出してもらえるように依頼した。

### 3. 結果と考察

#### (1) 調査回収率

初回、つまり第1回目の授業での質問紙調査用紙の回収率は70.5%、そのうち有効回答率は95.5%であった。最終回、すなわち第15回目の授業での質問紙調査用紙の回収率は71.6%、そのうち有効回答率は90.5%であった。

所属別男女別人数内訳を表1に示した。

所属 性	初回				最終回			
	社会人	総合科学部	工学部	医学部	社会人	総合科学部	工学部	医学部
男性	21	11	69	1	24	5	69	1
女性	1	16	8	0	3	13	8	0
未記入	1	0	0	0	0	0	0	0
小計	23	27	77	1	27	18	77	1
合計	128				123			

#### (2) 受講理由

本講義を受講した理由は、表2に示した通りである。社会人は、「災害について知りたい」、「防災士の受験資格が欲しい」、「災害発生時の状況を理解したい」という3項目が受講理由であったが、学生は、「災害について知りたい」、「単位が取れそうだった」、「防災士の受験資格が欲しい」、

項目 所属	災害について知りたい	単位が取れそうだった	防災士の受験資格が欲しい	普通救命講習修了証が欲しい	救急救命技術を身につけたい	災害発生時の状況を理解したい	なんとなく
社会人	34.8%	0%	23.9%	6.5%	10.9%	23.9%	0.0%
学部生	34.9%	26.9%	15.4%	2.9%	3.4%	12.6%	4.0%

「災害発生時の状況を理解したい」の4項目が受

講理由となっている。学生は単位取得が受講理由の2番目になっている。社会人は災害について知りたいと思い、学生も同じ思いはあるものの単位取得という思いも強いと言える。

(3) ボランティア活動について

表3. ボランティアという言葉の認知度

項目 所属	知っている意味もよく理解している		知っているが意味はよくわからない		聞いたことがないし、意味も知らない	
	初回	最終回	初回	最終回	初回	最終回
社会人	78.3%	96.3%	21.7%	3.7%	0.0%	0.0%
学部生	62.9%	75.0%	36.2%	24.0%	1.0%	0.01%

表3は、ボランティアという言葉の認知度を示したものである。ボランティアという言葉を知っていて意味もよく理解しているのは、初回では社会人が学部生よりも高かった。その傾向は、最終回も同様であったが、社会人も学部生も最終回が初回よりもその比率が高くなっている。

表4は、ボランティア活動への関心度を示したものである。社会人は、初回には「非常に関心を持った」比率が高かったが、最終回では低くなっている。それに対し、学生は、初回よりも最終回の方が「非常に関心を持った」比率が高くなっている。社会人は最初は関心が高かったが、それが低減し、学生は逆に授業を通して意識が高くなったと言える。

表5は、ボランティア活動に関心を持った理由を複数回答してもらった結果である。社会人と学生の傾向は類似しており、最初は「困っている人を手助けしたい」など自分の思いが強い項目の比率が高かった。最終回では「周りの人がやっているから」、「地域や社会をより良くしたい」など社会や周りの人のことを考えた項目の比率も高くなった。授業を通して、自分のことだけでなく、周りの人のことを考えるようになったと言える。

表4. ボランティア活動への関心の程度

項目 所属	非常に関心を持った		少し関心を持った		あまり関心を持たなかった		全く関心を持たなかった	
	初回	最終回	初回	最終回	初回	最終回	初回	最終回
社会人	56.5%	40.7%	39.1%	48.1%	0.04%	3.7%	0.0%	0.0%
学部生	13.3%	22.4%	67.6%	62.2%	16.2%	13.3%	2.9%	2.0%

表5. ボランティア活動に関心を持った理由(複数回答)

項目 所属	地域や社会をより良くしたい		困っている人の手助けをしたい		自分のやりたいことを発見したい		いろいろな人と出たい		自由時間を有効に使いたい	
	初回	最終回	初回	最終回	初回	最終回	初回	最終回	初回	最終回
社会人	3.4%	32.1%	34.5%	15.5%	3.4%	4.8%	17.2%	7.1%	20.7%	0.0%
学部生	21.7%	30.2%	36.8%	17.1%	5.9%	5.4%	9.9%	7.0%	4.6%	1.0%

項目 所属	周りの人がやっているから		新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい		進学、就職などで有利になるようにしたい		その他	
	初回	最終回	初回	最終回	初回	最終回	初回	最終回
社会人	0.0%	32.1%	20.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
学部生	0.7%	30.2%	13.8%	6.3%	5.9%	2.2%	0.7%	0.0%